



N

- 名前 (ダイヤル ピア コル カスタム) (2 ページ)
- nat (sip-ua) (3 ページ)
- nat media-keepalive (4 ページ)
- nat symmetric check-media-src (5 ページ)
- nat symmetric role (6 ページ)
- neighbor (annex g) (8 ページ)
- neighbor (tgrep) (10 ページ)
- network-clock base-rate (11 ページ)
- network-clock-participate (12 ページ)
- network-clock select (15 ページ)
- network-clock-switch (19 ページ)
- ノイズ フロア (20 ページ)
- non-linear (21 ページ)
- notify (MGCP プロファイル) (23 ページ)
- notify redirect (25 ページ)
- notify redirect (dial peer) (27 ページ)
- notify telephone-event (29 ページ)
- notify ignore substate (31 ページ)
- nsap (32 ページ)
- null-called-number (33 ページ)
- numbering-type (34 ページ)
- num-exp (37 ページ)

名前(ダイヤルピアコルカスタム)

カスタムの制限付きクラス (COR) の名前を指定するには、ダイヤルピア COR カスタム構成モードで **name** コマンドを使用します。指定の COR を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

name クラス名
いいえname クラス名

構文の説明

クラス名	特定の COR を説明する名前。
------	------------------

コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード

ダイヤルピア COR カスタム構成

コマンド履歴

リリース	変更
12.1(3)T	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

dial-peerCORcustom および **name** コマンドは、COR操作を適用する機能の名前を定義します。名前例には、call1900、call527、call9、または call 911 のいずれかが含まれます。機能は、COR ルールを指定する前に定義する必要があります。

最大 64 個の COR 名を定義できます。

例

次の例では、3 つの COR 名を定義しています。

```
dial-peer cor custom
name 900_call
name 800_call
name catchall
```

関連コマンド

コマンド	説明
dial-peercorcustom	名前付き COR がダイヤルピアに適用されることを指定します。
名前	内部アダプタに名前を指定します。

nat (sip-ua)

SIP ネットワークアドレス変換 (NAT) グローバル設定を使用するには、SIP ユーザエージェント設定モードで **nat** コマンドを使用します。このコマンドの **nat** 設定を無効にするには、**no** または **default** 形式を使用します。

nat自動 {強制オン | 強制オフ}

いいえ**nat**

自動	対称 NAT エンドポイントのロールを自動的に設定します。NAT の背後にある場合、リモート サブネット内のサブスクライバを自動検出します。
強制オン	対称 NAT エンドポイントのロールを強制的にオンに設定します。すべてのリモートサブスクライバが NAT デバイスの背後にいると想定します。

コマンドモード

SIP ユーザ エージェント構成 (sip-ua)

音声クラス テナント構成 (config-class)

音声サービス SIP 構成 (conf-serv-sip)

リリース	変更
12.2(13)T	このコマンドが導入されました。
Cisco IOS XE ダブリン 17.10.1a	YANG モデルのサポートを導入しました。

例

以下の例では、接続セットアップでエンドポイントロールをアクティブに設定する方法を示します。

```
Router(config)# sip-ua
Router(config-sip-ua)# nat auto
```

```
Router(config)# sip-ua
Router(config-sip-ua)# nat force-on
```

関連コマンド

コマンド	説明
nat symmetric check-media-src	対称 NAT のソースメディアチェックを有効にします。

nat media-keepalive

指定した時間 (秒) のメディア キープアライブ パケット転送をテナント レベルまたはグローバル レベルで有効にするには、音声クラス テナント構成 (`config-class`) または音声サービス SIP 構成 (`conf-serv-sip`) モードで **nat media-keepalive** コマンドを使用します。このコマンドの **nat** 設定を無効にするには、**no** または **default** 形式を使用します。

```
nat {自動 | 強制オン | メディアキープアライブ [間隔]}
いいえnat
デフォルトnat
```

構文の説明

メディアキープアライブ	NATの背後に位置するサブスクリバラーへのメディアキープアライブを指定します。
間隔	設定したキープアライブの間隔を秒単位で指定します。範囲は1～50です。デフォルトは10です。

コマンド デフォルト

値が指定されていない場合、既定の間隔値は10に設定されます。

コマンド モード

音声クラス テナント構成 (`config-class`)
音声サービス SIP 構成 (`conf-serv-sip`)

コマンド履歴

リリース	変更
Cisco IOS XE 17.13.1a	このコマンドが導入されました。
Cisco IOS XE ダブリン 17.12.2	

例

次に、グローバル レベルで `media keepalive` を設定する例を示します。

```
Device(config)# voice service voip
Device(config-voi-serv)# sip
Device(config-serv-sip)# nat media-keepalive 20
```

次に、テナントレベルで `media keepalive` を設定する例を示します。

```
Device(config)# voice class tenant 1
Device(config-class)# nat media-keepalive 35
```

nat symmetric check-media-src

対称ネットワークアドレス変換 (NAT) 環境でゲートウェイを有効にし、着信 Real-time Transport Protocol (RTP) パケットのメディアソースを確認するには、**natsymmetriccheck-media-src** コマンドを SIP ユーザエージェント設定モードで使用します。メディアソースの確認を無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

natsymmetriccheck-media-src

いいえ nat 対称 check-media-src

構文の説明

このコマンドには引数もキーワードもありません。

コマンド デフォルト

メディアソースの確認が無効になっています。

コマンド モード

SIP ユーザ エージェント 構成 (sip-ua)

コマンド履歴

リリース	変更
12.2(13)T	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

このコマンドにより、Session Initiation Protocol (SIP) ユーザエージェントの対称 NAT 設定を有効または無効にすることができます。「**nat symmetric check-media-src**」コマンドを使用して、ゲートウェイが最初に受信した RTP パケットのメディアソースアドレスとポートをチェックするように設定します。ゲートウェイが「アクティブまたは両方」の方向役割を受け取ると、メディアパケットのチェックが自動的に有効になります。

例

次の例では、メディアソースの確認を有効にします。

```
Router(config)# sip-ua
Router(config-sip-ua)# nat symmetric check-media-src
```

関連コマンド

コマンド	説明
natsymmetricrole	対称のための接続を開始または受け入れるエンドポイント設定を定義します。

nat symmetric role

対称型ネットワークアドレス変換(NAT)構成で、接続を開始または承認するエンドポイント設定を定義するには、**natsymmetricrole** コマンドを SIP ユーザーエージェント構成モードで使用します。**natsymmetricrole** の設定を無効にするには、**no** キーを使用します。

nat対称ロール {アクティブ|パッシブ}
 いいえ**nat**対称ロール {アクティブ|パッシブ}

構文の説明	アクティブ	対称 NAT エンドポイントのロールをアクティブに設定し、発信接続を開始します。
	パッシブ	対称 NAT エンドポイントのロールをパッシブに設定し、SDP 本文から他のエンドポイントに送信されるセッション記述プロトコル (SDP) 本文の行にあるポート番号への着信接続を受け入れます。

コマンド デフォルト NAT 構成の接続を開始または受け入れるためのエンドポイント設定が定義されていません。

コマンド モード SIP ユーザーエージェント構成 (sip-ua)

コマンド履歴	リリース	変更
	12.2(13)T	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン このコマンドは、SIPユーザーエージェントのシンメトリックNATエンドポイント設定を指定する機能を提供します。もしゲートウェイが方向役割を受け取らない場合は、NAT対称役割コマンドを使用してエンドポイント設定を定義し、対称NAT設定の接続を開始または受け入れるように設定します。これは、対称NATエンドポイントの役割をそれぞれアクティブまたはパッシブに設定することで達成されます。**Cisco**は、**nat symmetric role**コマンド次の条件で使用することを推奨します:

- エンドポイントは NAT の内部または外部に存在することを認識しています
- エンドポイントはSDP内の方向を解析および処理します:<role>

エンドポイントの条件が満たされない場合、**nat**対称ロールコマンドを設定しても、期待する結果が得られない場合があります。

例 以下の例では、接続セットアップでエンドポイントロールをアクティブに設定する方法を示します。

```
Router(config)# sip-ua
Router(config-sip-ua)# nat symmetric role active
```

関連コマンド

コマンド	説明
natsymmetriccheck-media-src	対称NATのソースメディアチェックを有効にします。

コマンド	説明
ポート	Annex G メッセージの交換に使用される近隣のポート番号を設定します。
query-interval	ローカル BE が近隣の BE にクエリーを行う間隔を設定します。

neighbor (tgrep)

別のデバイスとの TGREP セッションを作成するには、TGREP 設定モードで **neighbor** コマンドを使用します。TRIP 接続を無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

neighborIP アドレス

いいえneighborIP アドレス

構文の説明	IP アドレス	TGREP 情報が交換されるピアデバイスの IP アドレス。
-------	---------	--------------------------------

コマンド デフォルト 近隣デバイスが定義されていません

コマンド モード TGREP の構成

コマンド履歴	リリース	変更
	12.3(1)	このコマンドが導入されました。

例

次の例では、IP アドレスが 192.116.56.10 のゲートウェイが ITAD 1234 のネイバーとして定義されています。

```
Router(config)# tgrep local-itad 1234
Router(config-tgrep)# neighbor 192.116.56.10
```

関連コマンド	コマンド	説明
	tgrep local - itad	TGREP 構成モードを開始し、ITAD を定義します。

network-clock base-rate

ユニバーサル I/O シリアルポート 0 および 1 のネットワーククロックベースレートを設定するには、**ネットワーク-クロックbase-rate** コマンドをグローバル設定モードで使用するようになりました。現在のネットワーククロックベースレートを無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

network-clockbase-rate {56k | 64k}

いいえ **ネットワーククロックbase-rate {56k | 64k}**

構文の説明

56k	ネットワーククロックのベースレートを 56 kbps に設定します。
64k	ネットワーククロックのベースレートを 64 kbps に設定します。

コマンドデフォルト

56 kbps

コマンドモード

グローバル設定

コマンド履歴

リリース	変更
11.3(1)MA	このコマンドが Cisco MC3810 に導入されました。

使用上のガイドライン

このコマンドは、Voice over Frame Relay および Voice over ATM に適用されます。

例

次の例では、ネットワーククロックのベースレートを 64 kbps に設定します。

```
network-clock base-rate 64k
```

関連コマンド

コマンド	説明
network-clock-select	ネットワーククロックソースを使用して、システムバックプレーン PCM バスにタイミングを提供します。
ネットワーク-クロック-スイッチ	現在のネットワーククロックソースに障害が発生した場合に、次に優先順位の高いネットワーククロックソースに切り替える遅延時間を設定します。

network-clock-participate

指定されたネットワークモジュールまたは音声/WAN インターフェイスカード (VWIC) のポートがタイミングにネットワーククロックを使用できるようにするには、グローバル設定モードで `network-clock-participate` コマンドを使用します。デバイスが自身のクロック信号のみを使用するように制限するには、このコマンドの `no` 形式を使用します。

`network-clock-participate`[スロットスロット番号 | `wicwic-slot` | `aimaim-slot-number`]

いいえ `network-clock-participate`[`nm`スロット | `wicwic-slot`]

構文の説明	
スロットスロット-番号	(オプション)ルーターシャシーのネットワークモジュールスロット番号です。1～6の範囲の値を指定できます。
<code>wicwic-slot</code>	ルーターの WAN インターフェイスカード (WIC) スロット番号を設定します。有効な値は 0 または 1 です。
<code>aimaim-slot-number</code>	指定されたスロットにアドバンスドインテグレーションモジュール AIM を設定します。aim-slot-number の値は、Cisco 3660 では 0 または 1、Cisco 3725、および Cisco 3745 では 0 または 1 です。

コマンド デフォルト ネットワーククロッキングは有効になっておらず、インターフェイスは自分のモジュールで生成されたクロッキングの使用に制限されています。

コマンド モード

グローバル設定

コマンド履歴

リリース	変更
12.1(5)XM	このコマンドが Cisco 3660 に導入されました。
12.2(4)T	このコマンドが Cisco IOS Release 12.2(4)T に統合されました。
12.2(2)XB	<code>slot</code> キーワードが <code>nm</code> キーワードおよび <code>wic</code> キーワードに置き換えられ、 <code>wic-slot</code> 引数が追加されました。
12.2(8)T	このコマンドが Cisco IOS Release 12.2(8)T に統合されました。
12.2(15)T	このコマンドが Cisco 3660、Cisco 3725、および Cisco 3745 をサポートする Cisco IOS Release 12.2(15)T に統合されました。クロックは 2 つのポートで同期できます。 <code>aim</code> キーワードが追加されました。 <code>nm</code> キーワードが <code>slot</code> キーワードに置き換えられました。
12.4(15)T9	このコマンドが Cisco IOS Release 12.4(15)T9 に統合され、NM-CEM-4SER モジュールのサポートが追加されました。

使用上のガイドライン このコマンドは、Cisco 3660、Cisco 3725、および Cisco 3745 ルーターでの ATM セグメンテーションおよび再構成またはデジタル信号処理に使用されます。

このコマンドは、T1/E1 コントローラを備えたネットワークモジュールに適用され、中央のソース (Cisco 3660 の場合は ミックスモジュール) からネットワークモジュールおよびネットワークモジュール上のポートにクロックを提供します。次に、そのポートをクロックソースとして **network-clock-select** コマンドを使用して選択することで、他のポートまたはネットワーククロックに参加するネットワークモジュールにクロックを供給し、**network-clock-participate** コマンド。このコマンドは 2 つのポートのクロックを同期化します。

Cisco 3700 シリーズでは、**network-clock-participate** コマンドと、**wicwic-slot** キーワードと引数または **slotslot-number** キーワードと引数。



- (注) AIM が T1 または E1 コントローラからクロック信号を受け取る場合、**network-clock-select** および **network-clock-participate** コマンドを使用する必要があります。ATM および音声インタフェースのクロックは同期している必要はありませんが、同期している場合、音声品質が向上する場合があります。



- (注) ネットワーククロッキングに参加できる唯一の VWIC は、デジタル T1/E1 パケット音声トランクネットワークモジュール (NM-HDV)、およびファストイーサネットネットワークモジュール (NM-2W、NM-1FE、および NM-2FE) です。



- (注) Cisco IOS Release 12.4(15)T9 以降、**network-clock-participate** コマンドを NM-CEM-4ser モジュールにも使用できます。**network-clock-participate** コマンドが設定されている場合、クロックはバックプレーンから供給されます。**nonetwork-clock-participate** コマンドが設定されている場合、ローカルオシレータークロックが使用されます。

例

次の例では、スロット 5 のネットワークモジュールを設定して、ミックスモジュール搭載の Cisco 3660 でネットワーククロッキングに参加するように設定します。

```
network-clock-participate slot 5
network-clock-select 1 e1
```

次の Cisco 3700 シリーズルーターの例では、AIM がネットワーククロッキングに参加し、クロック信号を提供するためにポート E1 0/1 を選択することを指定しています。

```
Router(config)# network-clock-participate wic 0
Router(config)# network-clock-participate aim 0
Router(config)# network-clock-select 2 E1 0/1
```

次の例では Cisco 3660 で、ネットワーククロッキングに参加するスロット番号を指定し、ポート E1 5/0 を選択します。

```
Router(config)# network-clock-participate slot 5  
Router(config)# network-clock-select 1 E1 5/0
```

関連コマンド

コマンド	説明
ネットワーククロック選択	クロックソースの選択の優先順位を指定します。
ネットワーククロックソース	他のポートまたはネットワークモジュールにクロックリソースを提供するためのクロックソースとなるポートを選択します。

network-clock select

ネットワーククロックのタイミングを提供するソースに名前を付け、このクロックソースに選択の優先順位を指定するには、**ネットワーク-クロック-セレクト** コマンドをグローバル設定モードで使用できます。ネットワーク時計の選択をキャンセルするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

Cisco ASR 1000 シリーズ

ネットワーククロック **select** {優先順位[ビット[R0 | R1] {e1[crc4 | no-crc4 | unframed] | t1[esf | sf | unframed]} | コントローラタイプ *number* | グローバル | インターフェイスタイプ *number* | ローカル | システム] | オプション {1 | 2}}

いいえネットワーククロック **select** 優先順位 [global | local]

Cisco 7600 シリーズおよび Cisco 10000 シリーズ

ネットワーククロック **select** 優先順位 {コントローラタイプ *number* | インターフェイスタイプ *number* | スロット *number* | システム} [global | local]

いいえネットワーククロック **select** 優先順位 [グローバル | ローカル]

構文の説明

優先順位	クロックソースの選択の優先順位 (1 が最高の優先順位です)。範囲は 1 ~ 6 です。 最も高い優先順位を持つクロックが、システムの時分割多重 (TDM) クロックを駆動するために選択されます。優先順位の高いクロックソースに障害が発生すると、次に優先順位の高いクロックソースが選択されます。
ビット	(オプション) セントラル オフィス (CO) のビル統合タイミング サプライ (BITS) クロックからネットワーク タイミングを導出します。
R0	(オプション) ルートプロセッサ 0 BITS をソーススロットとして指定します。
R1	(オプション) ルートプロセッサ 1 BITS をソーススロットとして指定します。
e1	(オプション) E1 接続を使用するように BITS インターフェイスを設定します。
crc4	(オプション) 巡回冗長検査 4 (CRC4) で E1 BITS インターフェイスフレーミングを設定します。
no-crc4	(オプション) E1 BITS インターフェイスのフレーミングを CRC4 なしで設定します。
フレームなし	(オプション) BITS インターフェイスをクリア チャネルで設定します。

t1	(オプション) T1 接続を使用するように BITS インターフェイスを設定します。
esf	(オプション) Extended Super Frame (ESF) フレーミング標準で T1 BITS インターフェイスを設定します。
sf	(オプション) Super Frame (SF) フレーミング標準で T1 BITS インターフェイスを設定します。
controllertypenumber	クロックソースとなるコントローラーを指定します。
interfacetypenumber	クロックソースとなるインターフェイスを指定します。
スロット番号	クロックソースとなるスロットを指定します。範囲は 1～6 です。
グローバル	(オプション) ソースをグローバルとして構成します。
ローカル	(オプション) ソースをローカルとして構成します。
システム	クロックソースとしてシステムクロックを指定します。
オプション	ネットワークオプションの標準を指定します。適用可能な値は以下の通りです。 <ul style="list-style-type: none"> • 1—ネットワークオプション I は ITU G-813 標準です。 • 2—ネットワークオプション II (Gen1) は、Bellcore GR-1244/GR-253 (ストラタム 3) および ITU G-813 標準です。これがデフォルト値です。 (注) ネットワークオプションは RP2 プラットフォームでのみ利用できます。

コマンドデフォルト ルーターはシステムクロックを使用します (フリーランモードとも呼ばれます)。



(注) デフォルトのクロック値は外部ソースから取得されるため、設定可能な範囲外になる場合があります。

コマンドモード

グローバル設定 (config)

コマンド履歴

リリース	変更
11.3 MA	このコマンドが Cisco MC3810 に導入されました。
12.0(3)XG	ネットワーククロックソースとして BVM が追加されました。

リリース	変更
12.1(5)XM	このコマンドはCisco 3660で実装されました。キーワード t1 と e1 が導入されました。
12.2(4)T	このコマンドが Cisco IOS Release 12.2(4)T に統合されました。
12.2(2)XB	このコマンドが Cisco 2600 シリーズおよび AIMs がインストールされた Cisco 3660 に実装されました。
12.2(8)T	このコマンドが Cisco IOS Release 12.2(8)T に統合されました。
12.2(15)T	このコマンドが Cisco 2600XM、Cisco 2691、Cisco 3725、および Cisco 3745 に実装されました。
12.3(8)T4	このコマンドが Cisco IOS Release 12.3(8)T4 に統合され、 bri キーワードが追加されました。Cisco 2800 シリーズのサポートも追加されました。
12.3(11)T	このコマンドが Cisco IOS Release 12.3(11)T に統合され、 atm キーワードが追加されました。Cisco 3800 シリーズのサポートも追加されました。
Cisco IOS XE リリース 2.1	このコマンドは、Cisco IOS Release 2.1 より前のリリースで導入されました。
15.0(1)S	このコマンドが Cisco IOS Release 15.0(1)S 以前のリリースに統合されました。
Cisco IOS XE リリース 3.1	このコマンドは変更されました。このコマンドが Cisco ASR 1000 プラットフォームに実装されました。 オプション キーワードが追加されました。

使用上のガイドライン

アクティブなクロックソースに障害が発生した場合、システムは次に低い優先順位のクロックソースを選択します。より優先順位の高いクロックソースが利用可能になると、システムは自動的にそれを再選択します。

最大5つのクロック優先順位を指定することができます。ルーターの最高優先順位のアクティブインターフェイスは、ネットワーククロック同期サービスを必要とする他のすべてのインターフェイスにプライマリ参照ソースを提供します。

タイミングソースについては、ルートプロセッサはBITSインターフェイスまたはTDMベースの共有ポートアダプタ (SPA) を通じてタイミング情報を受信できます。一部の通信展開では、エンドツーエンドデータパスでネットワーク機器のグローバルクロッキング同期を提供するために、BITSクロッキングが必要です。T1またはE1接続を使用して、ネットワーククロックモジュールにBITSクロックを提供できます。

コントローラーがクロックソース階層で指定されている場合、そのコントローラーをラインタイミング用に構成する必要があります (コントローラー用の適切な **クロックsourceline** コマン

ドを使用して)。現在クロックソースとして機能していないコントローラーは、自動的にループタイミングモードで動作します。両方のコントローラーに異なるクロックソース優先順位値を与えることができます。詳細は、[Cisco IOS インターフェイスおよびハードウェアコンポーネントコマンドリファレンスを参照してください](#)。



- (注) **no** ネットワーククロック **select** コマンドは、**exit** または **end** を入力してEXECモードに戻るまで有効にはなりません。このプロセスにより、クロックソースが構成される回数が最小限に抑えられます。

ルーターで設定されているクロックの優先順位を表示するには、**shownetwork-clocks** コマンドを使用します。

例

次に、ネットワーククロックをリバーティブとして設定し、クロックソースに2つの優先順位を指定する例を示します。

```
Router> enable
Router# configure terminal
Router(config)# network-clock revertive
Router(config)# network-clock select 1 bits R0 e1
Router(config)# network-clock select 2 interface GigabitEthernet 0/0/1
```

次の例では、ネットワーク時計のネットワークオプションを設定する方法を示します。

Router(config)# ネットワーククロック選択option1

関連コマンド

コマンド	説明
network-clock-participate	ネットワーククロッキングに参加するようにネットワークモジュールを設定します。
network-clock-switch	現在のネットワーククロックソースに障害が発生した場合、またはより優先順位の高いクロックソースが利用可能になった場合に、次の優先順位のネットワーククロックソースに切り替える遅延時間を設定します。
shownetwork-clocks	ネットワーククロック設定および現在のプライマリクロックソースを表示します。

network-clock-switch

現在のネットワーククロックソースに障害が発生した場合に、次に優先順位の高いネットワーククロックソースに切り替える遅延時間を設定するには、グローバル設定モードで **network-clock-switch** コマンドを使用します。ネットワーククロック遅延時間の選択をキャンセルするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

ネットワーククロックスイッチ[切り替え遅延 | **never**][*restore-delay* | **never**]
 いいえ **network-clock-switch**

構文の説明

<i>switch-delay</i>	(オプション)現在のネットワーククロックソースに障害が発生した場合、次に優先順位の高いネットワーククロックソースが使用されるまでの遅延時間(秒)を設定します。値の範囲は0～99です。デフォルトは10です。
決して	(オプション)現在のネットワーククロックソースが回復するまでの遅延時間なし。
<i>restore-delay</i>	(オプション)現在のネットワーククロックソースが回復するまでの遅延時間(秒)。範囲は0から99です。
決して	(オプション)現在のネットワーククロックソースに障害が発生した場合、次に優先順位の高いネットワーククロックソースが使用されるまでの遅延時間はありません。

コマンドデフォルト 10 秒

コマンドモード

グローバル設定

コマンド履歴

リリース	変更
11.3(1)MA	このコマンドが Cisco MC3810 に追加されました。

使用上のガイドライン

このコマンドは、Voice over Frame Relay および Voice over ATM に適用されます。

例

次の例では、ネットワーククロックソースを20秒後に切り替え、現在のネットワーククロックソースが回復するまでの遅延時間を20秒に設定します。

```
network-clock-switch 20 20
```

関連コマンド

コマンド	説明
network-clock-select	ネットワーククロックソースを使用して、システムバックプレーン PCM バスにタイミングを提供します。

ノイズフロア

これを超えるとノイズリダクションNRが動作するノイズレベルdBmを設定するには、メディアプロファイル設定モードで **noisefloor** コマンドを使用します。設定を無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

noisefloor レベル

いいえ **noisefloor** レベル

構文の説明

レベル	最小ノイズレベル (dBm)。値の範囲は -58 ~ -20 です。
-----	------------------------------------

コマンド デフォルト

既定値は -48 dBm です。

コマンドモード

メディアプロファイルの設定 (cfg-mediaprofile)

コマンド履歴

リリース	変更
15.2(2)T	このコマンドが導入されました。
15.2(3)T	このコマンドは変更されました。Cisco Unified Border Element (Cisco UBE) のサポートが追加されました。

使用上のガイドライン

noisefloor コマンドを使用して、ノイズリダクション (NR) が作動する、dBmでのノイズレベルを設定します。NRは、このレベルより静かなノイズを処理せずに通過させることを許可します。ノイズ除去のためのメディアプロファイルを作成し、ノイズレベルを設定する必要があります。信号レベルは 0 dBm (非常に大きい) から始まり、静かなレベルほど値が負になります。デフォルト値の -48 dBm は非常に静かです。

例

次の例では、メディアプロファイルを作成してノイズ除去パラメータを設定する方法を示します:

```
Device> enable
Device# configure terminal
Device(config)# media profile nr 200
Device(cfg-mediaprofile)# noisefloor -50
Device(cfg-mediaprofile)# end
```

関連コマンド

コマンド	説明
強度	ノイズ除去プロセスの強度または深さです。
media profile nr	メディアプロファイルを作成してノイズ除去パラメータを設定します。

non-linear

エコーキャンセラの非線型処理 NLP を有効にし、しきい値またはコンフォート ノイズの減衰を設定するには、音声ポート設定モードで **非線型** コマンドを使用します。ノンリニア処理を無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

non-linear[コンフォート ノイズattenuation {0db | 3db | 6db | 9db} | しきい値dB]

いいえ**non-linear**[快適ノイズattenuation | しきい値]

構文の説明

0db 3db 6db 9db	(オプション) comfort noiseの減衰レベル(dB)。既定は 0db で、comfort noiseは減衰されません。
しきい値 db	(オプション) しきい値を dBで設定します。値の範囲は 15 ~ 45 です。既定は-21 です。 (注) 拡張 G.168 エコーキャンセラを使用している場合、このキーワードはサポートされません。

コマンド デフォルト

NLP が有効です。コンフォート ノイズの減衰は無効です。しきい値は -21 デシベルです。

コマンド モード

音声ポートの構成

コマンド履歴

リリース	変更
11.3(1)T	このコマンドが導入されました。
12.2(11)T	threshold キーワードが追加されました。
12.2(13)T	このコマンドが、拡張 G.168 エコーキャンセラをサポートするルーターに実装されました。
12.3(6)	comfort-noise キーワードが追加されました。
12.4	コンフォートノイズの減衰のデフォルト設定が 0db から 6db に変更されました。

使用上のガイドライン

このコマンドにより、一般的に残余エコー抑制と呼ばれる機能が有効になります。近端通話が検出されない場合、このコマンドを使用して信号をオフにします。このコマンドを有効にすると、通常、パフォーマンスが向上しますが、このコマンドが有効になっている場合、一部のユーザーは、文末の子音が切り捨てられると感じるかもしれません。

NLPによって生成されたコンフォートノイズがヒス音のように聞こえる場合は、**comfort-noise** キーワードを使用してください。このキーワードを使用すると、ヒスという音が小さくなりま

す。コンフォートノイズの減衰のデフォルト設定は、音声品質の最高の満足度を達成するために、6db です。



(注) このコマンドが効果を発揮するためには、**echo-cancelenable** コマンドを有効にする必要があります。

例

次の例では、Cisco 3600 シリーズ ルーター上でノンリニア コール処理を有効にします。

```
voice-port 1/0/0
non-linear
```

次の例では、Cisco 3600 シリーズ ルーターで、アッテネータレベルを 9 dB に設定しています。

```
voice-port 1/0/0
non-linear comfort-noise attenuation 9db
```

関連コマンド

コマンド	説明
echo-cancelenable	同じインターフェイス上で送受信される音声のエコーキャンセリングを有効にします。

notify (MGCP プロファイル)

自動番号認識 (ANI) および着信番号識別サービス (DNIS) の番号が Media Gateway Control Protocol (MGCP) コールエージェントに報告される順番を指定するには、**notify** コマンドを MGCP プロファイル コンフィギュレーション モードで使用します。既定の設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

notify {**ani-dnis** | **dnis-ani**}

いいえ通知する {**ani-dnis** | **dnis-ani**}

構文の説明

ani-dnis	ANI 桁が最初の通知メッセージで送信され、次に DNIS が送信されます。これはデフォルトです。
dnis-ani	DNIS 番号は最初の通知メッセージで送信され、その後に ANI が送信されます。

コマンドデフォルト

デフォルトの順序では、ANI が最初、DNIS が 2 番目です。

コマンドモード

MGCP プロファイルの設定

コマンド履歴

リリース	変更
12.4(4)T	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

T1 インターフェイスで機能グループ D (FGD) Exchange Access 北米 (EANA) プロトコルを使用する場合、このコマンドは ANI と DNIS の順序を制御します。**ani-dnis** キーワードを選択すると、ANI 桁が MGCP コールエージェントに最初の NTFY メッセージで送信され、DNIS 桁が 2 番目の NTFY メッセージで送信されます。**dnis-ani** キーワードを選択すると、ANI 桁が MGCP コールエージェントに最初の NTFY メッセージで送信され、ANI 桁が 2 番目の NTFY メッセージで送信されます。

例

次の例では、デフォルトの MGCP プロファイルで DNIS を最初に、ANI を次に設定します。

```
Router(config)# mgcp profile default
Router(config-mgcp-profile)# notify dnis-ani
```

関連コマンド

コマンド	説明
mgcppackage-capability	メディアゲートウェイの MGCP パッケージ機能タイプを指定します。
mgcpprofile	1 つまたは複数の MGCP エンドポイントに関連付けられるように MGCP プロファイルを定義します

コマンド	説明
showmgcp	MGCP 構成情報を表示します。
showmgcpprofile	MGCP プロファイルの情報を表示します。

notify redirect

Cisco IOS 音声ゲートウェイ上のすべての VoIP ダイアルピアに対して、アプリケーションによるリダイレクト要求の処理を有効にするには、音声サービスの VoIP 設定で **notifyredirect** コマンドを使用します。ゲートウェイ上でアプリケーションによるリダイレクトリクエストの処理を無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。ゲートウェイをデフォルトの [**notifyredirect** コマンド設定に戻すには、このコマンドの **default** 形式を使用します。

通知するリダイレクトする {ip2ip | ip2pots}

いいえ通知するリダイレクトする {ip2ip | ip2pots}

デフォルト通知するredirect {ip2ip | ip2pots}

構文の説明

ip2ip	IP から IP への通話の通知のリダイレクトを有効にします。
ip2pots	IP-to-POTS 通話における IP-to-IP 通話の通知リダイレクトを有効にします。

コマンド デフォルト

IP-to-IP 通話のリダイレクト通知が有効になっています。

IP-to-POTS 通話の通知リダイレクトが無効になっています。

Cisco Unified Communications Manager Express (Cisco Unified CME) に登録された Session Initiation Protocol (SIP) 電話のリダイレクト通知が有効になっています。

コマンド モード

音声サービス VoIP の設定 (conf-voi-serv)

コマンド履歴

リリース	変更
12.4(4)T	このコマンドが導入されました。
15.1(1)T	このコマンドが Cisco IOS Release 15.1(1)T に統合されました。次の既定のビヘイビアが追加されました: Cisco Unified CME に登録された SIP 電話の通知のリダイレクションが有効です。
Cisco IOS XE Cupertino 17.7.1a	Yang モデルのサポートを導入しました。

使用上のガイドライン

通知リダイレクションをゲートウェイ上でグローバルに有効にするには、このコマンドを使用します。ダイアルピア音声設定モードで **notifyredirect** コマンドを使用して、ゲートウェイ上の特定の着信ダイアルピアの IP から IP へ、および IP から POTS への通話の通知リダイレクション設定を構成します。



(注) このコマンドは、Cisco Unified Communications Manager Express (Cisco Unified CME) リリース 3.4 以降、および Cisco Unified Session Initiation Protocol (SIP) Survivable Remote Site Telephony (SRST) リリース 3.4 以降でサポートされています。ただし、互換性のある Cisco Unified SIP SRST デバイスの音声サービス VoIP 設定モードで **notifyredirect** コマンドを使用するには、まず **allow-connections** コマンドを使用して、対応するコールフローを SRST ゲートウェイで有効にします。

例

以下は、**showrunning-config** コマンドからの出力例の一部です。通知のリダイレクトが IP から IP および IP-to-POTS 通話 (IP-to-IP 通話のサポートはデフォルトで有効になっているため、ip2ip 設定は出力に表示されません)。

```
voice service voip
  notify redirect ip2pots
  allow-connections h323 to h323
  allow-connections h323 to sip
  allow-connections sip to sip
  no supplementary-service h450.2
  no supplementary-service h450.3
  sip
  registrar server expires max 600 min 60
```

関連コマンド

コマンド	説明
allow-connections	VoIP ネットワーク内の特定のエンドポイントタイプ間の接続を許可します。
notifyredirect(dialpeer)	Cisco IOS 音声ゲートウェイの特定の VoIP ダイアルピアで、アプリケーションによるリダイレクト要求の処理を有効にします。

notify redirect (dial peer)

Cisco IOS 音声ゲートウェイ上の特定の VoIP ダイアルピアで、アプリケーションによるリダイレクト要求の処理を有効にするには、ダイアルピア音声構成モードで **notifyredirect** コマンドを使用します。ゲートウェイでのリダイレクションの通知を無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。ゲートウェイをデフォルトのリダイレクションの通知設定に戻すには、このコマンドの **default** 形式を使用します。

notifyredirect {ip2ip | ip2pots}

いいえ通知するリダイレクトする {ip2ip | ip2pots}

デフォルト通知するリダイレクトする {ip2ip | ip2pots}

構文の説明	ip2ip	リダイレクト通知コマンドが IP から IP への通話に適用されることを指定します。
	ip2pots	リダイレクト通知コマンドが IP から POTS へのコールに適用されることを指定します。

コマンド デフォルト IP-to-IP のリダイレクト通知が有効です。IP から POTS へのリダイレクト通知が無効です。
Cisco Unified Communications Manager Express (Cisco Unified CME) に登録された Session Initiation Protocol (SIP) 電話のリダイレクト通知が有効になっています。

コマンド モード ダイアル ピア音声構成 (config-dial-peer)

コマンド履歴	リリース	変更
	12.4(4)T	このコマンドが導入されました。
	15.1(1)T	このコマンドが Cisco IOS Release 15.1(1)T に統合されました。次の既定のビヘイビアが追加されました: Cisco Unified CME に登録された SIP 電話の通知のリダイレクションが有効です。

使用上のガイドライン このコマンドをダイアルピア設定モードで使用して、Cisco IOS 音声ゲートウェイのインバウンドダイアルピアに IP-to-IP および IP-to-POTS コールを設定します。このコマンドは、ダイアルピアごとに通知のリダイレクト設定を構成します。

通知のリダイレクションがダイアルピア音声構成モードで有効になっている場合、特定のダイアルピアの構成は、ダイアルピアが着信ダイアルピアである場合にのみ有効になります。Cisco IOS 音声ゲートウェイでリダイレクト通知をグローバルに有効にするには、音声サービス VoIP 設定モードで **notifyredirect** コマンドを使用します。



- (注) このコマンドは、Cisco Unified Communications Manager Express (Cisco Unified CME) リリース 3.4 以降および Cisco Unified Session Initiation Protocol (SIP) Survivable Remote Site Telephony (SRST) リリース 3.4 以降でサポートされています。ただし、互換性のある Cisco Unified SIP SRST デバイスの音声サービス VoIP 設定モードで **notifyredirect** コマンドを使用するには、まず **allow-connections** コマンドを使用して、対応するコールフローを SRST ゲートウェイで有効にします。

例

以下は、**showrunning-config** コマンドからの出力例の一部です。通知のリダイレクトが IP から IP および IP-to-POTS 通話 (IP-to-IP 通話のサポートはデフォルトで有効になっているため、ip2ip 設定は出力に表示されません)。

```
dial-peer voice 8000 voip
 destination-pattern 80..
 notify redirect ip2pots
 session protocol sipv2
 session target ipv4:209.165.201.15
 dtmf-relay rtp-nte
 codec g711ulaw
!
```

関連コマンド

コマンド	説明
allow-connections	VoIP ネットワーク内の特定のエンドポイントタイプ間の接続を許可します。
通知リダイレクト	Cisco IOS 音声ゲートウェイ上のすべての VoIP ダイアルピアに対して、アプリケーションによるリダイレクト要求の処理を有効にします。

notify telephone-event

特定の電話イベントに対して、2つの連続する NOTIFY メッセージ間の最大間隔を設定するには、SIP UA 設定モードで **notifytelephone-event** コマンドを使用するか、音声クラス テナント コンフィギュレーションモードを使用します。間隔をリセットしてデフォルト値に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

notify電話イベント最大継続時間ミリ秒 [システム]

いいえ通知する電話イベント

構文の説明	max-duration ミリ秒	単一の DTMF イベントに対する連続する NOTIFY メッセージ間の時間間隔(ミリ秒単位)。値の範囲は 40～3000 です。デフォルトは 2000 です。
	システム	特定の電話イベントの NOTIFY メッセージがグローバル sip-ua 値を使用することを指定します。このキーワードはテナントモードでのみ使用可能で、それがグローバル設定にフォールバックすることを許可します。

コマンド デフォルト 2000 ミリ秒

コマンド モード SIP UA 構成 (config-sip-ua)
音声クラス テナント構成 (config-class)

コマンド履歴	リリース	変更
	12.2(15)ZJ	このコマンドが導入されました。
	12.3(4)T	このコマンドが Cisco IOS Release 12.3(4)T に統合されました。
	15.0(1)M	このコマンドは変更されました。ミリ秒引数の許容範囲が拡張されました(範囲の下限が 500 から 40 に変更されました)。
	12.4(24)T3	このコマンドは変更されました。ミリ秒引数の許容範囲が拡張されました(範囲の下限が 500 から 40 に変更されました)。
	15.6(2)T および IOS XE デナリ 16.3.1	このコマンドにキーワード system が追加されました。
	Cisco IOS XE ダブリン 17.10.1a	YANG モデルのサポートを導入しました。

notifytelephone-event コマンドは **dtmf-relaysip-notify** コマンドと連携します。 **dtmf-relaysip-notify** コマンドは、SIP NOTIFY メッセージを使用して帯域外 DTMF トーンを転送します。 **notifytelephone-event** コマンドは、単一の DTMF イベントに対する連続する NOTIFY メッセージ間の最大時間間隔を設定します。最大時間は2つの SIP エンドポイント間で協議され、最小の継続時間値が選択されます。この継続時間は、SIP-NOTIFY DTMF リレーの協議の一部として、コールの確立時に協議されます。

発信側ゲートウェイは、SIP Call-Info ヘッダーを使用して、招待メッセージで DTMF リレーの指示を送信します。着信側ゲートウェイは、同じく Call-Info ヘッダーを使用して、18x/200 応答メッセージで応答します。設定された継続時間は、Call-Info ヘッダーに次のように表示されます。

```
Call-Info: <sip: address>; method="Notify;Event=telephone-event;Duration=msec"
```

たとえば、ゲートウェイ A の最大継続時間が 1000 ms に設定され、ゲートウェイ B が 700 ms に設定されている場合、ネゴシエートされた継続時間は 700ms になります。A と B の両方が、DTMF イベントのすべての NOTIFY メッセージで値 700 を使用します。

例

次の例では、DTMF イベントの最大継続時間を 40 ms に設定します。

```
Router(config)# sip-ua
Router(config-sip-ua)# notify telephone-event max-duration 40
```

次の例では、音声クラステナント コンフィギュレーションモードでの DTMF イベントの最大継続時間を設定します。

```
Router(config-class)# notify telephone-event max-duration system
```

関連コマンド

コマンド	説明
dtmf-relay sip-notify	SIP NOTIFY メッセージを使用して DTMF トーンを転送します。

notify ignore substate

Subscription-State ヘッダーを無視するには、SIP UA 設定モードまたは音声クラステナント設定モードで、**notify ignore substate** コマンドを使用します。間隔をデフォルト値にリセットするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

notify ignore substate

いいえ **notify ignore substate**

コマンドモード

SIP UA 構成 (config-sip-ua)

音声クラス テナント構成 (config-class)

コマンド履歴

リリース	変更
12.2(15)ZJ	このコマンドが導入されました。
Cisco IOS XE ダブリン 17.10.1a	Yang モデルのサポートを導入しました。

例

次に例を示します。

```
Router(config)# sip-ua
Router(config-sip-ua)# notify ignore substate
```

nsap

ローカルビデオダイヤルピアのネットワークサービスアクセスポイント (NSAP) アドレスを指定するには、ダイヤルピア設定モードで **nsap** コマンドを使用します。ダイヤルピアから設定済みの NSAP アドレスを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

nsap NSAP アドレス

いいえ **nsap**

構文の説明	<i>nsap</i> -アドレス	40桁の16進数。番号はデバイス上で一意である必要があります。
-------	-------------------	---------------------------------

コマンド デフォルト ビデオダイヤルピアの NSAP アドレスが設定されていません

コマンド モード ダイヤルピア コンフィギュレーション

コマンド履歴	リリース	変更
	12.0(5)XK	このコマンドが、Cisco MC3810 の ATM ビデオダイヤルピアの設定に導入されました。
	12.0(7)T	このコマンドが Cisco IOS Release 12.0(9)T に統合されました。

使用上のガイドライン アドレスはルーター上で一意である必要があります。

例 次の例では、10 として指定されたローカルビデオダイヤルピアの NSAP アドレスをセットアップします。

```
dial-peer video 10 videocodec
nsap 47.0091810000000002F26D4901.333333333332.02
```

関連コマンド	コマンド	説明
	dial-peervideo	ローカルまたはリモートのビデオコーデック用のビデオ ATM ダイヤルピアを定義し、ビデオ関連のカプセル化を指定して、ダイヤルピア設定モードを開始します。
	showdial-peervideo	ダイヤルピア設定を表示します。

null-called-number

音声サービス H.323 構成モードで、着信 H.323 設定メッセージに着信番号 IE が含まれていない場合に、着信番号 IE としてユーザ定義の番号を代用するには、**null-called-number** コマンドを使用します。着信番号 IE として使用される番号の追加を無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

null-called-numberオーバーライド文字列
 いいえ **null-called-number**

構文の説明

overridestring	H.323 セットアップメッセージで IE の着信番号が欠落している場合に、E.164 またはプライベートダイヤルプランの電話番号にユーザが定義した一連の番号を指定します。有効な入力 は 0 から 9 までの数字です。
-----------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------

コマンド デフォルト

コマンドの動作が無効になりました。情報要素で着信番号がない H.323 セットアップメッセージは切断されます。

コマンド モード

音声サービス h323 設定 (conf-serv-h323)

コマンド履歴

リリース	変更
12.4(22)YB	このコマンドが導入されました。
15.0(1)M	このコマンドが Cisco IOS Release 15.0(1)M に統合されました。

使用上のガイドライン

コール接続を確立するには、着信 H.323 セットアップメッセージに、着信番号の IE と E.164 宛先アドレスが含まれている必要があります。IE の着信番号のないコールは切断されます。**null-Called-number** は、着信番号 IE が欠落している場合に通話を完了するために使用されるユーザ定義の番号であり、IE は「情報要素」を意味します。

例

次の例は、H.323 セットアップメッセージで着信番号 IE が欠落している場合に、コールを完了するために使用されるユーザ定義の番号として 4567 が設定されていることを示しています。

```
Router (conf-serv-h323) # null-called-number override 4567
```

numbering-type

ダイヤルピアコールレグの番号タイプを照合するには、ダイヤルピア設定モードで **numbering-type** コマンドを使用します。ダイヤルピアコールレグのナンバリングタイプを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

ナンバリングタイプ {**international** | **abbreviated** | **national** | **network** | **reserved** | **subscriber** | **unknown**}

いいえナンバリングタイプ {**international** | **abbreviated** | **national** | **network** | **reserved** | **subscriber** | **unknown**}

構文の説明

international	国際番号タイプです。
abbreviated	省略番号タイプです。
国内	国内番号タイプです。
ネットワーク	ネットワーク番号の種類です。
予約済み	予約済みのナンバリングタイプです。
サブスライバ	サブスライバ番号タイプです。
不明	ナンバリングの種類が不明です。

コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はない

コマンド モード

ダイヤルピア コンフィギュレーション

コマンド履歴

リリース	変更
12.0(7)XR1	このコマンドが Cisco AS5300 に導入されました。
12.0(7)XK	このコマンドは次のように導入されました。 <ul style="list-style-type: none"> VoIP: Cisco 2600 シリーズ、Cisco 3600 シリーズ、Cisco MC3810 VoFR: Cisco 2600 シリーズ、Cisco 3600 シリーズ、Cisco MC3810 VoATM: Cisco 3600 シリーズ、Cisco MC3810
12.1(1)T	このコマンドが Cisco IOS Release 12.1(1)T に統合され、次のように実装されました。 <ul style="list-style-type: none"> VoIP: Cisco 1750、Cisco 2600 シリーズ、Cisco 3600 シリーズ、Cisco AS5300、Cisco 7200 シリーズ、Cisco 7500 シリーズ

リリース	変更
12.1(2)T	このコマンドは次のように導入されました。 <ul style="list-style-type: none"> • VoIP: Cisco MC3810 • VoFR: Cisco 2600 シリーズ、Cisco 3600 シリーズ、Cisco MC3810 • VoATM: Cisco 3600 シリーズ、Cisco MC3810
12.2(2)XB1	このコマンドが Cisco AS5850 に実装されました。
12.2(11)T	このコマンドが Cisco IOS Release 12.2(11)T に統合されました。

使用上のガイドライン

このコマンドは、POTS、VoIP、VoFR、VoATM ダイアルピア設定をサポートしています。ナンバリングタイプのオプションは、ITU Q.931 仕様の定義に従って実装されます。

例

次の例は、ネットワーク利用の POTS ダイアルピアを設定する方法を示します。

```
dial-peer voice 100 pots
  numbering-type network
```

次の例では、サブスクリバ利用に応じて VoIP ダイアルピアを設定する方法を示します。

```
dial-peer voice 200 voip
  numbering-type subscriber
```

関連コマンド

コマンド	説明
ルール	着信と発信の両方の発信側番号または着信側番号にトランスレーションルールを適用します。
showtranslation-rule	特定のトランスレーション名に対して設定されたすべてのルールのコンテンツを表示します。
testtranslation-rule	特定のネームタグのトランスレーションルールの実行をテストします。
translate	着信コールに対して、発信側番号または着信側番号にトランスレーションルールを適用します。
translate-outgoing	着信コールに対して、発信側番号または着信側番号にトランスレーションルールを適用します。
translation-rule	トランスレーション名を作成し、translation-rule コンフィギュレーションモードを開始します。

コマンド	説明
voip-incomingtranslation-rule	H.323 互換クライアントから発信されたコールをキャプチャします。

num-exp

内線電話番号を拡張して特定の宛先パターンにする方法を定義するには、グローバル設定モードで **num-exp** コマンドを使用します。設定済みの番号拡張を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

num-exp 内線番号 *expanded-number*

いいえ **num-exp** 内線番号

構文の説明	<i>extension-number</i>	特定のダイヤルピアの内線番号を定義する 1 桁または複数の桁。
	<i>expanded-number</i>	リストされた内線番号の拡張電話番号または宛先パターンを定義する 1 桁以上。

コマンド デフォルト 番号拡張が定義されていません。

コマンド モード グローバル設定

コマンド履歴	リリース	変更
	11.3(1)T	このコマンドが Cisco 3600 シリーズに導入されました。
	12.0(3)T	このコマンドが Cisco AS5300 に実装されました。
	12.0(4)XL	このコマンドが Cisco AS5800 に実装されました。
	12.0(7)T	このコマンドが Cisco IOS Release 12.0(7)T に統合されました。
	12.0(7)XK	このコマンドが Cisco MC3810 に実装されました。
	12.1(2)T	このコマンドは変更されました。Cisco IOS Release 12.1(2)T に統合されました。
	Cisco IOS XE Bengaluru 17.6.1a	YANG モデルのサポートを導入しました。

使用上のガイドライン このコマンドを使用して、特定の番号のセット (例えば、内線電話番号) を特定の宛先パターンに展開する方法を定義します。このコマンドを使用すると、各番号を明示的に定義することにより、特定の内線番号と拡張された番号を関連付けたり、変数を使用して内線と拡張された番号を定義したりできます。また、このコマンドを使用して、7 桁の番号を 7 桁未満の番号に変換することもできます。

制限に達したことを示すエラーメッセージをルーターが送信する前に、最大で 250 の内線番号を設定できます。

変数またはワイルドカードとしてピリオド(.)を使用し、単一の数字を表す。ワイルドカードで表したい各番号には、個別のピリオドを使用します。たとえば、内線番号中の4つの番号をワイルドカードで置き換えるには、4つのピリオドを入力します。

CLI コマンド **num-exp** を使用する場合、設定可能なオプションとしてプラス記号 (+) が表示されているものの、+E.164 形式の番号の変換はサポートされていません。回避策として、プラス記号 (+) を含む +E.164 ダイアルパターンをサポートするトランスレーションルールを使用することをお勧めします。設定例については、[例](#)を参照してください。

例

以下は、音声ゲートウェイでの +E.164 番号のサポートの構成例です。

```
router(config)#show num-exp
Dest Digit Pattern = '1001'      Translation =
                                 '+4001'

router(config)#num-exp 1001 ?
WORD Substitution Pattern to Translate Dialed Pat
to E.164
```

次の例では、内線番号 50145 を 14085550145 に展開します:

```
num-exp 50145 14085550145
```

次の例では、5 で始まるすべての 5 桁の内線を拡張し、内線の先頭の 5 が数字 1408555 に置換されるようにします。

```
num-exp 5.... 1408555....
```

関連コマンド

コマンド	説明
dial-peerterminator	可変長のダイヤル番号の終了文字として使用される特殊文字を指定します。
forward-digits	音声コールで転送する番号を指定します。
プレフィックス	ダイヤルピアのプレフィックスを指定します。

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。